

財団概要

名称 一般財団法人 先端ロボティクス財団(Advanced Robotics Foundation)
設立日 令和元(2019)年6月3日
目的 本財団は、先端ロボティクス分野及びドローン産業分野の振興を図るため、競技大会、若手人材育成、研究・開発、調査および情報提供をすること等により、先端ロボティクス分野およびドローン産業分野の発展に資することを目的とする。

(定款 第3条)

事業 本財団は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)先端ロボティクス分野の競技大会の実施
- (2)先端ロボティクス分野における若手人材の育成
- (3)先端ロボティクス分野の研究・開発
- (4)先端ロボティクス分野の調査および情報提供
- (5)上記に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

(定款 第4条)

所在地・アクセス

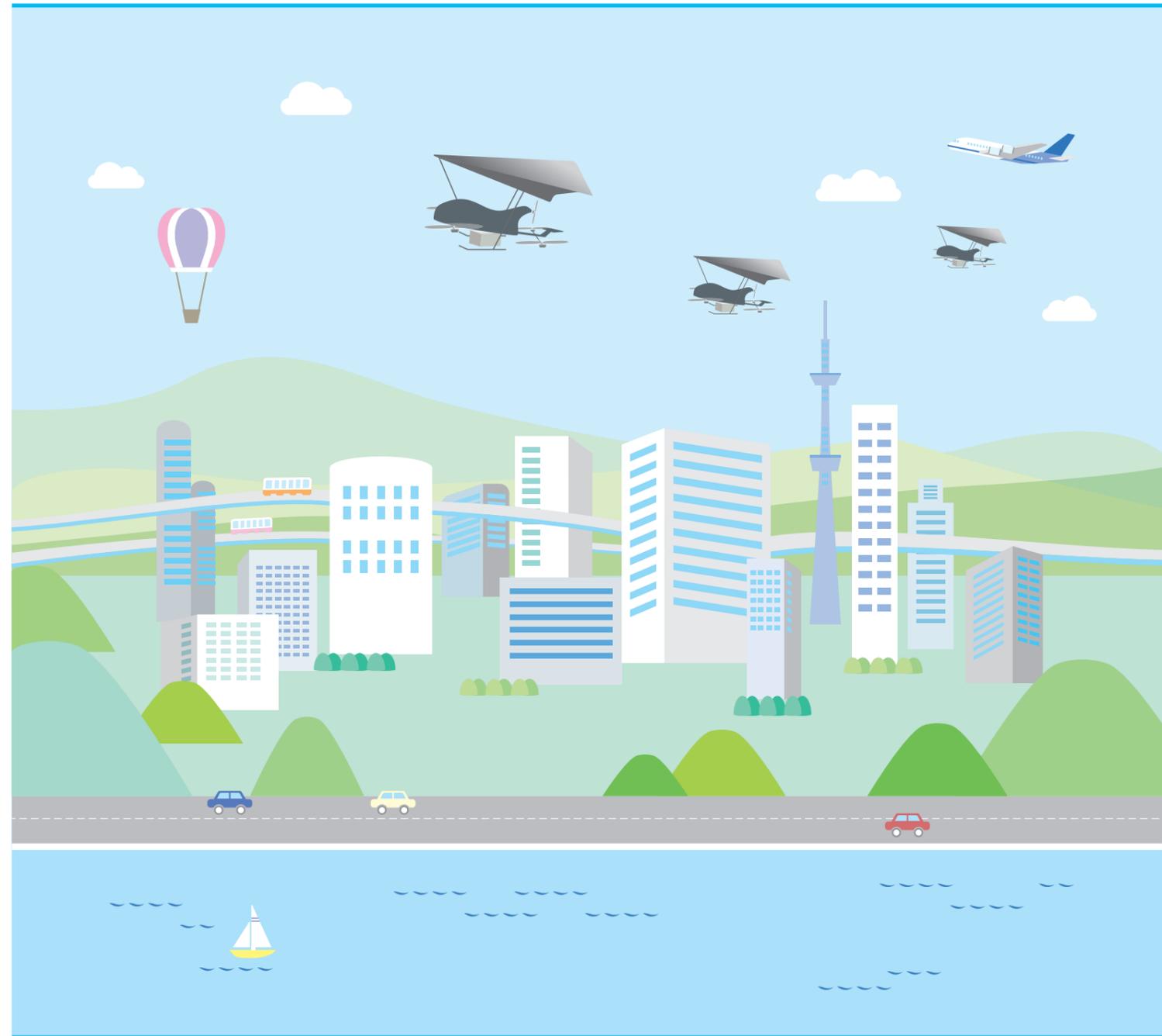
一般財団法人 先端ロボティクス財団
<https://arf.or.jp/>

〒104-0041
東京都中央区新富2-1-7 富士中央ビル6階
TEL : 03-5244-9810 / FAX : 03-5244-9811
E-mail : info@arf.or.jp



東京メトロ有楽町線 新富町駅
2番出口から徒歩1分
東京メトロ日比谷線 築地駅
4番出口から徒歩5分

中央区役所より道路を隔てた
正面茶色のスレンダービル6F



一般財団法人
先端ロボティクス財団

ADVANCED ROBOTICS FOUNDATION

先端ロボティクス財団とは

当財団は、先端ロボティクス分野及びドローン産業分野の振興・発展を目的として、株式会社自律制御システム研究所(現在の株式会社ACSL)創業者である野波健蔵の拠出により設立されました。民間財団として国内外の学術関係者等と協力しながら、幅広く活動しています。

3つのミッション



重点目標

1. 東京湾等の都市部上空飛行を想定した長距離・長時間飛行可能な物流ドローンの研究・開発
2. 東京湾等の都市部ドローン物流網の確立
3. 競技大会方式による人材育成
4. ドローン産業分野に関する情報提供

役員・名誉顧問・評議員

役員	
理事長	野波健蔵 (千葉大学名誉教授)
理事	佐藤知正 (東京大学名誉教授) 鈴木真二 (東京大学特任教授) 浅間 一 (東京大学教授) 田所 諭 (東北大学教授) 松野文俊 (京都大学教授) 三平満司 (東京工業大学教授)
監事	飯沼春樹 (弁護士、飯沼総合法律事務所)
名誉顧問	冨塚誠義 (カリフォルニア大学教授) 金出武雄 (カーネギーメロン大学教授) Roland Siegwart (スイス連邦工科大学教授)

評議員	劉 浩 (千葉大学教授) 鈴木英男 (東京情報大学教授) 武田圭史 (慶応義塾大学教授) 滝田好宏 (防衛大学校名誉教授) 平田光男 (宇都宮大学教授) 甲斐義弘 (東海大学教授) 砂田 茂 (名古屋大学教授) 土屋武司 (東京大学教授)
-----	--

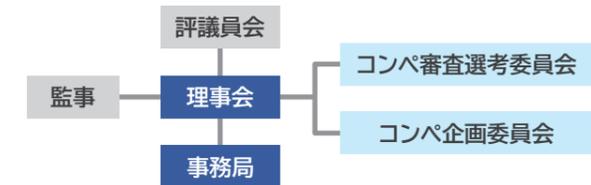
(2022年8月17日現在)

コンペ企画委員会

大原 賢一 (名城大学教授)
東野伸一郎 (九州大学教授)
公文 誠 (熊本大学教授)
鈴木 智 (千葉大学准教授)
浦久保孝光 (神戸大学准教授)
三輪昌史 (徳島大学准教授)
高木 健 (広島大学准教授)
横山 誠 (新潟大学准教授)
並木明夫 (千葉大学准教授)
岡田佳都 (東北大学特任准教授)
橋口宏衛 (大同大学講師)

「コンペ企画委員会」は競技大会方式(コンペ)による人材育成事業の企画に係る有識者委員会です。コンペの審査を担当する審査委員を兼ねます。

先端ロボティクス財団組織図



ドローン産業分野の振興を図るための事業

研究・開発事業 / 東京湾縦断飛行実証実験

目的:東京湾岸エリアに位置する政令指定都市、横浜市と千葉市間の約50kmをドローンでつなげ、東京湾上の超低空域にドローン物流ハイウェイを構築する。

東京湾岸エリアは世界に冠たる過密地帯で、海上路、空路、湾岸道路、アクアラインの渋滞は頻繁に発生します。ここへ既存交通網とは別の第3の大動脈・空の交通システムを構築し、エコシステムの都市間物流が実現すれば既に高い環境負荷にある東京湾岸エリアの環境負荷が軽減されます。ゆくゆくは東京都、川崎市はもちろん、ベイエリアの各都市を結びながら、必要に応じて房総半島や三浦半島まで拡張する構想です。

2022年3月24日(木)に実施した東京湾縦断の公開実証実験では、長距離・長時間飛行が可能な機体「VTOLカイトプレーン」を用い、当日AM 8:23に横浜市幸浦を離陸、AM 9:34に千葉市稲毛海浜公園のドローンステーション(縦2m×横2m×高さ2.2mの大きさでドローンの離発着場であり、かつ、荷物の着脱を可能とし保管も可能な装置)に着陸。およそ1時間の飛行を成功させました。



実証実験機体 VTOLカイトプレーン

湾岸都市部の飛行には、墜落しにくい高い安全性を誇る機体が求められます。カイトプレーンは、30年に及び自律飛行の実績があり、カイトの揚力でエネルギー効率良く飛行するエコ機体です。更に、当財団で都市部物流に適した滑走路の要らないVTOL型へ改良しました。現在はカイト部のカーボン化も果たし、更なる長距離・長時間飛行を実現しています。2023年度、ビジネス便としての東京湾上空飛行が目標です。今後の動向にご期待ください。

調査・情報提供事業 / 『日本ドローン年鑑』刊行

2021年5月27日に『日本ドローン年鑑2021』(日刊工業新聞社刊)を刊行。日本ドローン産業の全貌を丹念に調査しまとめた本書は、高い評価を受けています。本書は「産業編」「機体編」「企業編」及び巻末法人リストで構成されており、データベースとして活用しやすいように編集しています。今後も国内のドローン情報の最新版をまとめた年鑑の制作・刊行を継続する予定です。



『日本ドローン年鑑2021』
日刊工業新聞社刊
A5判230頁
定価(税込)5,500円(本体価格5,000円)

今後の予定

2023年7月に横浜市で開催される第22回国際自動制御連盟総会(IFAC2023)に合わせて、IFAC2023・ARF World Drone Competitionを開催することと致しました。詳細は当財団サイト(<https://arf.or.jp/>)をご参照ください。

また、『日本ドローン年鑑』の世界版にあたる情報についても、会員向けに提供する資料として制作を進めています。